

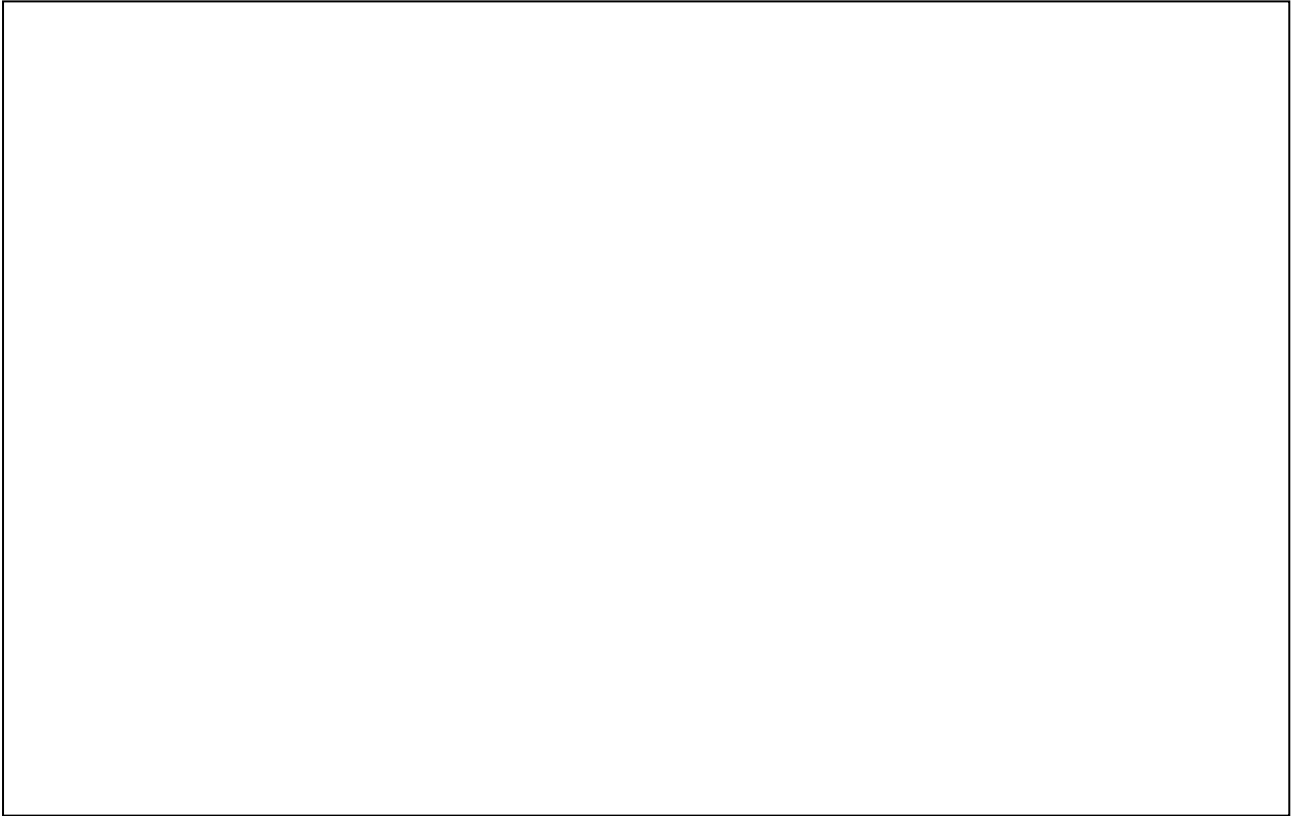
1 銀閣の庭 (P 3)



2 龍安寺の庭 (P 3) (P 99)



3 春日権現験記録起絵巻 (東京国立博物館所蔵) (P5)(P51)(P93)



4 河原にできた中世の町

(網野善彦「歴史を旅する絵本 河原にできた中世の町 へんれきをする人々の集まる場所」1988 岩波書店をもとに作成)(P5)



5 今様職人尽歌合(大阪人権博物館所蔵) (P3)(P10)



硯きり・キセル掘り



櫛挽・井戸掘り



草履造・ふるわんかい



獅子舞・鉄砲師



事ふれ・越後獅子



はりがねうり・団扇うり

6 職人尽歌合(大阪人権博物館所蔵) (P3)(P10)



まんじゅう売り・ほろみそ売り



硫黄箒売・草履作



女盲・琵琶法師



陰陽師・医師



燈芯売・葱うり



猿楽・田楽



えた・いたか



むかばき造り・ひきめくり



弦売(つるめそ)・弓つくり



翠簾屋・から紙師



ろくろし・鎧細工

参考資料：職人尽歌合に出てくる職人(一部を除く)

まんじゅう売り：蒸し餅の中にあんの入った饅頭を売り歩く。覆面から、賤視されていた人々であったと考えられる。

ほろみそ売り：奈良産で、「ばさばさ」、「ほろほろ」状態になった特殊な味噌。

硫黄幕売(ゆわうははきうり)：硫黄木(つけ木)という檜などの薄い木片に硫黄を塗りつけた火移しに用いるもの。それを束ねて売っている。草履作同様に覆面から、賤視されていた人々であったと考えられる。

女盲：「盲目」の女性芸能者。賤視されていた人々であった。

琵琶法師：袂いや祈禱などに関わり、あの世とこの世をつなく境界的な寺院や場で、勸進平家の興業を行う。畏怖と賤視の両義性を持ち合わせていた。

陰陽師：吉凶を占う呪術師。民間陰陽師と宮廷陰陽師があるが、民間陰陽師は呪術的な芸能に従事する声聞師と重なる部分もあり、中世賤民が関わっている。

医師：医療を生業とするとともに、薬を調合し患者に売っていた。死牛馬を解体していた人々にも、医師として医療や製薬に関わる人々がいた。

燈芯売り：い草の芯から燈芯が作られるもので、燈火として利用された。近世においては被差別民が燈芯作を行っていた。

猿楽：翁面をつけ祝福芸を見せた。坂や河原付近に住んでいた。後に猿楽能は「世阿弥」により大成されるが、「世阿弥」に対する「後愚昧記」の作者のまなざしから、どのような立場にあったか想像できる。

田楽：一般的には農耕儀礼。太鼓や笛、ささらなどを打ち演じた。僧侶のような体をし、多くが阿弥号(一般的に賤視されていた人が名乗ることが多かった)を用いていた。

えた：河原で肉を扱う職能民として、賤視されていた。

いたか：読経して銭を請う乞食坊主といわれている。賤視されていた人々であった。

むかばき造り：動物の毛皮で作られた腰から足にかけてのおおい。遠方への騎馬の際に使われた。

ひきめくり：穴が5~6つ空いたもので、矢の先につける。放つと風を受け鳴り響くもので、笠懸・犬追物などの射芸で使用された。
弦売(つるめそ)：弓の弦を売る者で、祇園社所属の非人であるともいわれる。顔を覆っているところからも賤視されていた人々であることがわかる。

ろくろし：ろくろなどを用いて、木材から盆や椀などを作る人。

翠簾屋(みすや)：竹を割って細い絹などの糸で編んで、部屋の区切りとしてつり下げられた簾(すだれ)を作る職人。

から紙師：唐紙(紙に胡麻または雲母の粉末で模様を刷りだした紙)を製造する職人。

参考文献 岩崎佳枝・網野善彦・高橋喜一・塩村耕 「七十一番職人歌合 新撰狂歌集古今夷曲集」 新日本古典文学大系 61 1993 岩波書店

網野善彦 「職人歌合」 1992 岩波書店

岩崎佳枝 「職人歌合 中世職人群像」 1987 平凡社

竹本義明 「校注 土佐国職人歌合」 1989 竹本義明

7 土佐国職人尽絵(高知市立図書館所蔵) (P10)



1 番左 弓打



1 番右 鞍打



2 番左 博士
(病人祈禱を行う者)



2 番右 博勞
(馬商人)



3 番左 くじら突き



3 番右 茶師



4 番左 焼物師



4 番右 檜物師(ひものし)
(檜・杉などの薄板を曲げて作る器物職員)



5番左 蠟燭師



5番右 豆腐屋



6番左 棺屋



6番右 とうま(葬式)
(墓穴を掘る人)



7番左 釣鍛冶



7番右 梁(や)うち



8番左 鯉つり



8番右 節きり



9番左 硯石取



9番右 紙すき



10番左 山師



10番右 船乗



11番左 夷廻
(近世のクグツ師の一種 正月に家々を廻り一家の繁栄を祈った)



11番右 七夕
(七夕の道具売り)



12番左 座頭



12番右 比丘尼
(尼姿の下級売春婦)



13番左 取売
(骨董の斡旋人や小道具屋)



13番右 古手かか
(古着・古道具商の女)



14番左 古家触 (ふるやぶれ)
(古屋を紹介して触れる人)



14番右 木遣 (きやり)
(大木、大石を運ぶ時音頭取りのかけ声をかける人)

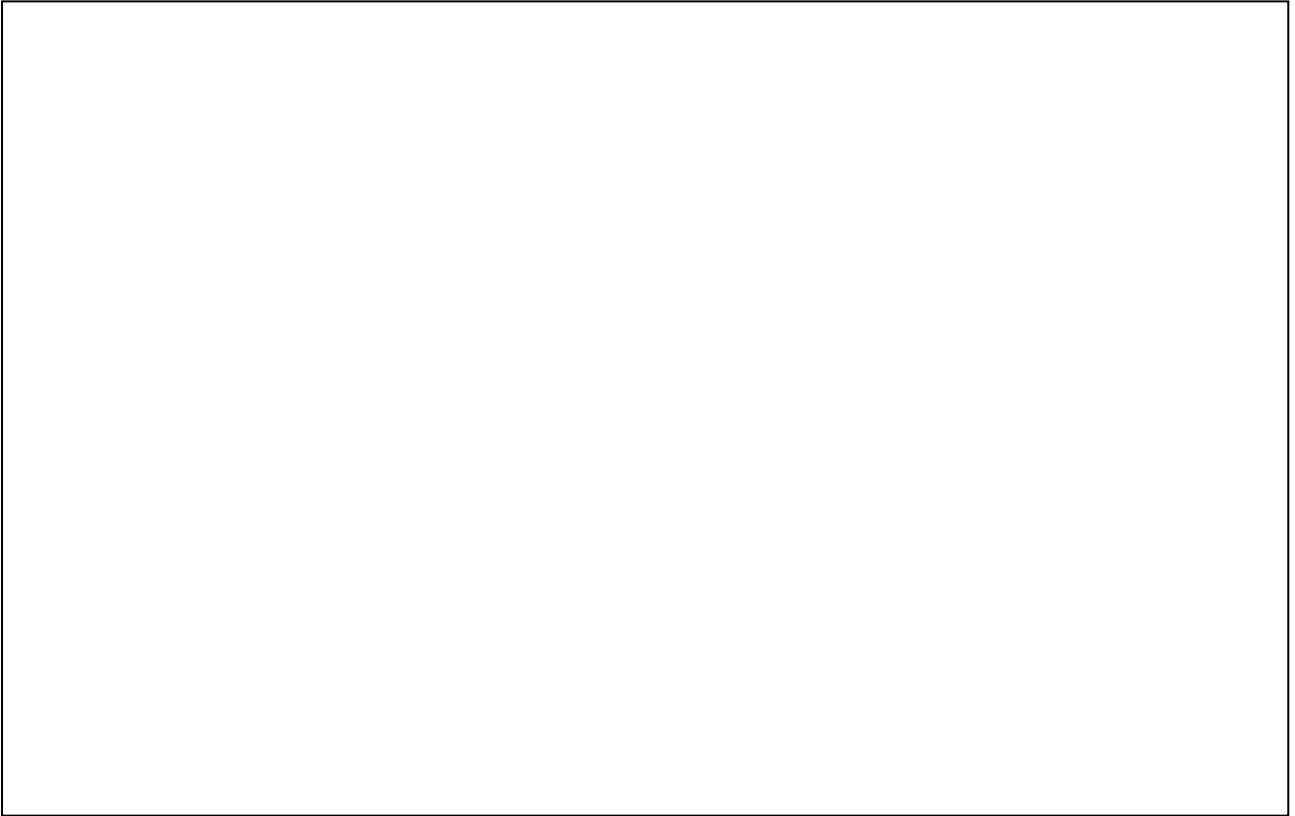


15番左 真言宗

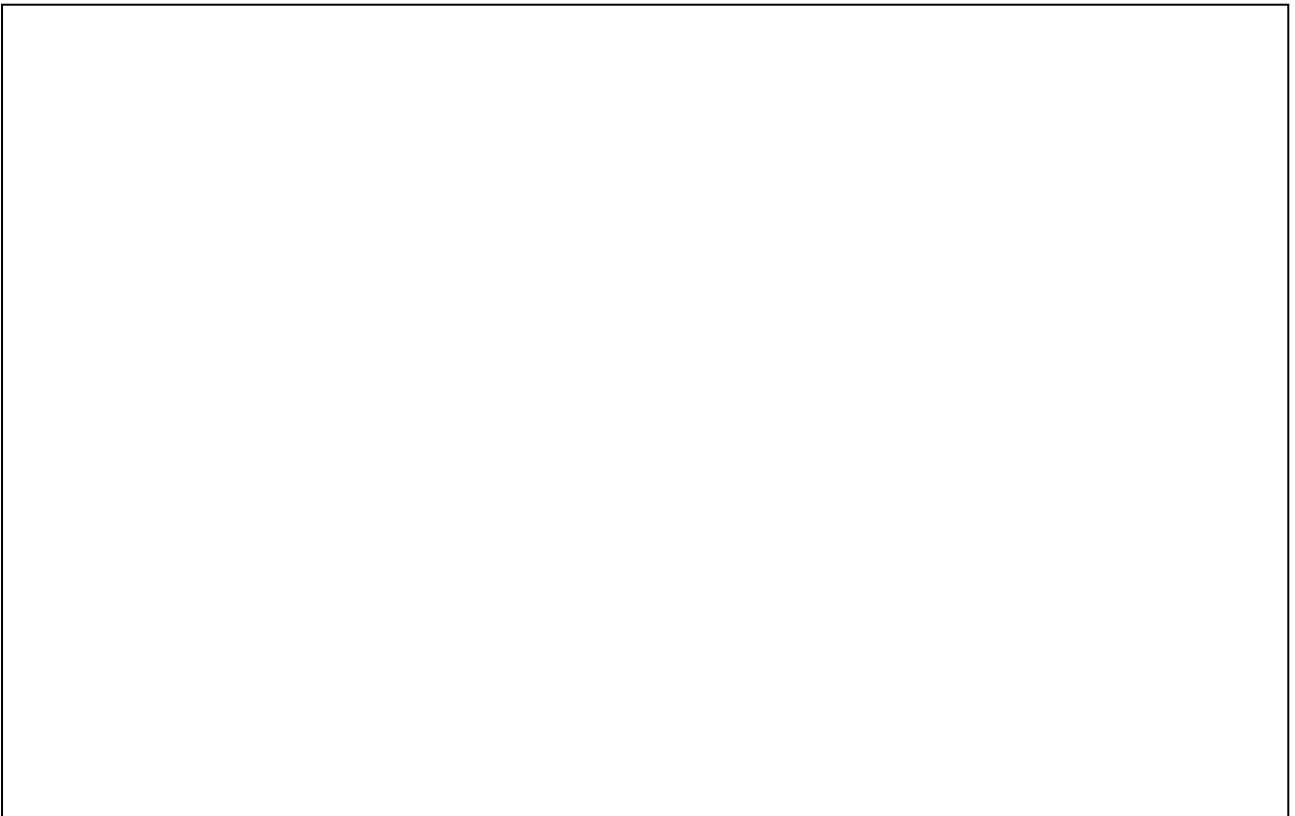


15番右 禅宗

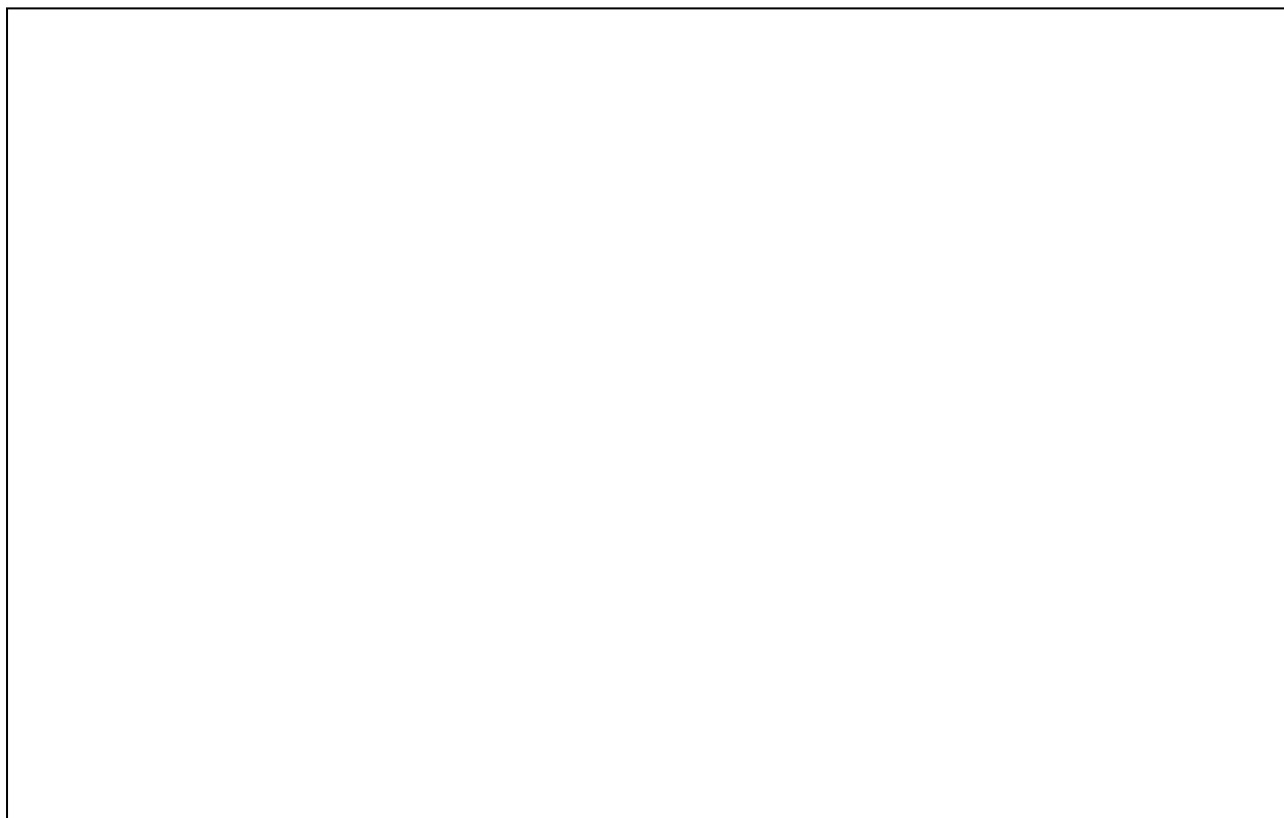
8 洛中洛外図屏風(財団法人高津古文化会館所蔵) (P51)



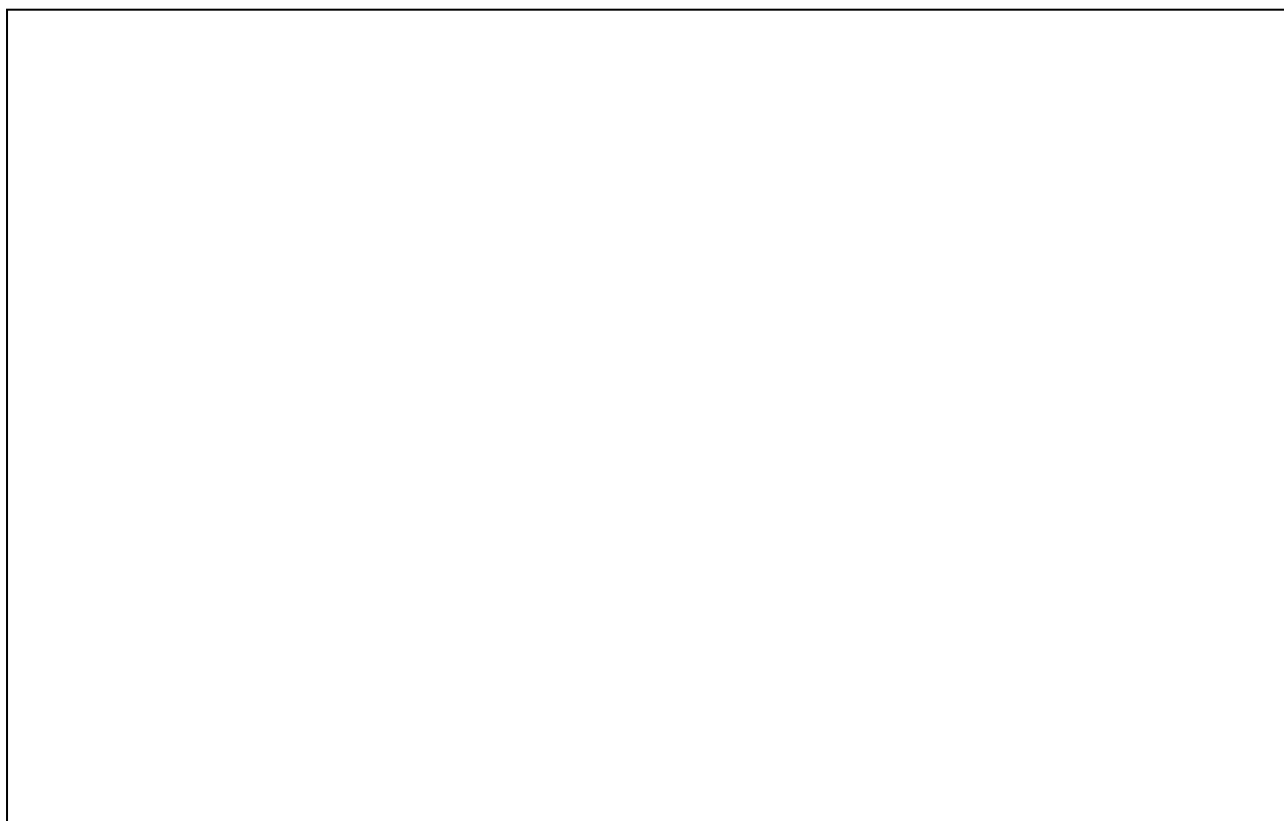
9 洛中洛外図屏風 [拡大] (財団法人高津古文化会館所蔵) (P51)



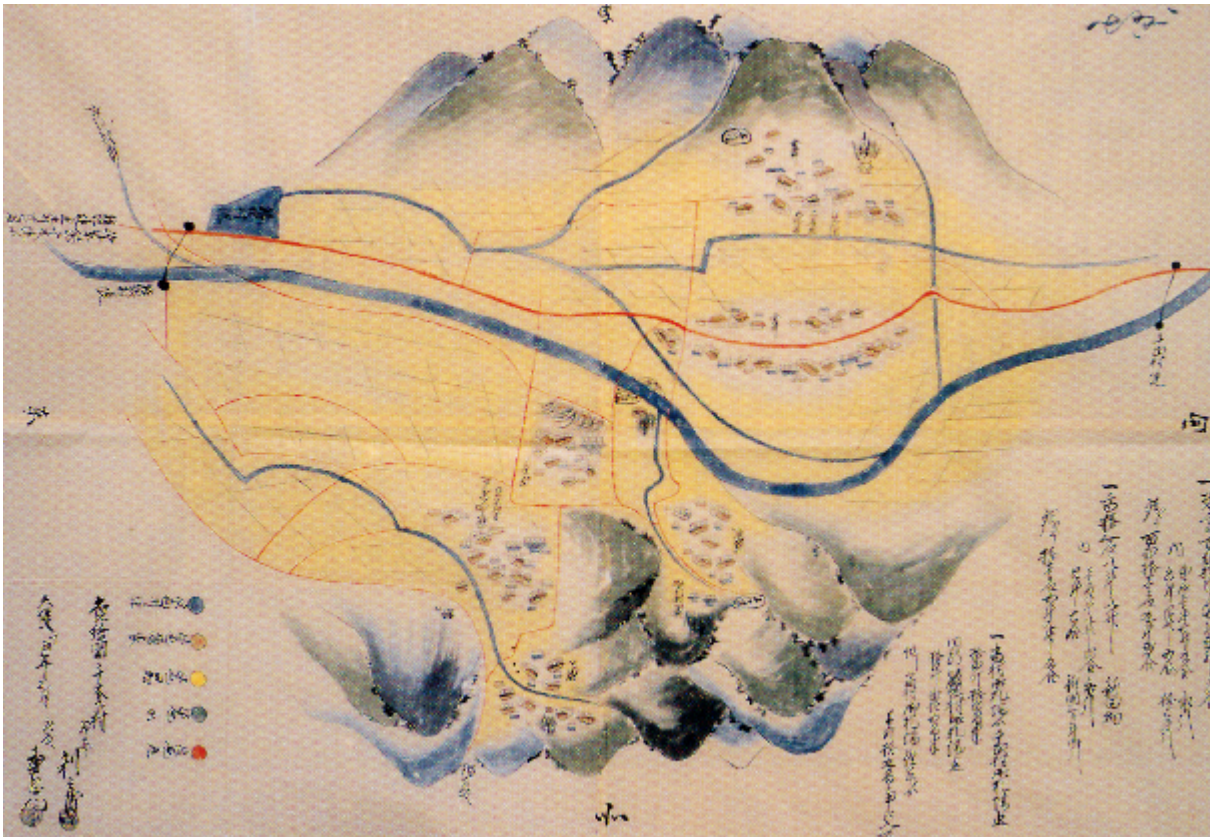
10 一遍上人絵伝 [臨終の場面] (清浄光寺・歡喜光寺所蔵) (P52)(P97)



11 一遍上人絵伝 [入水] (清浄光寺・歡喜光寺所蔵) (P97)



12 近世の絵地図(龍野市立歴史文化資料館所蔵) (P55)



補足資料：北山十八間戸と非人札



鎌倉時代の中ごろ、僧忍性がハンセン病患者救済のため営まれた施設で、明治時代まで利用された。



非人札は、近世の大坂において「四ヶ所」とも呼ばれていた非人たちの営業許可証であった。

補足資料：差別されていた人々の仕事



太鼓造 (大阪人権博物館所蔵)



太鼓 (大阪人権博物館所蔵)



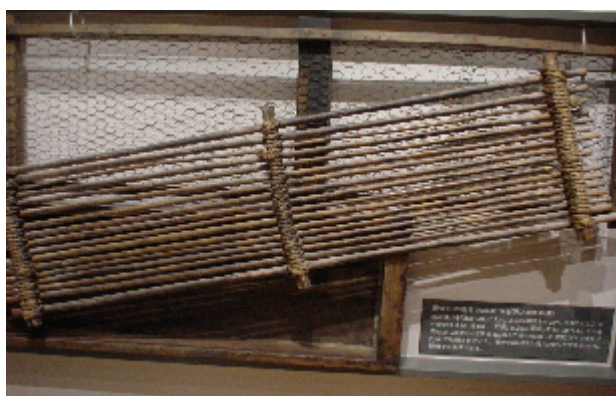
太鼓の内部 (大阪人権博物館所蔵)
(修理した人の名と日付が書かれている)



雪駄造 (大阪人権博物館所蔵)



雪駄「白緒の最高級品」(大阪人権博物館所蔵)

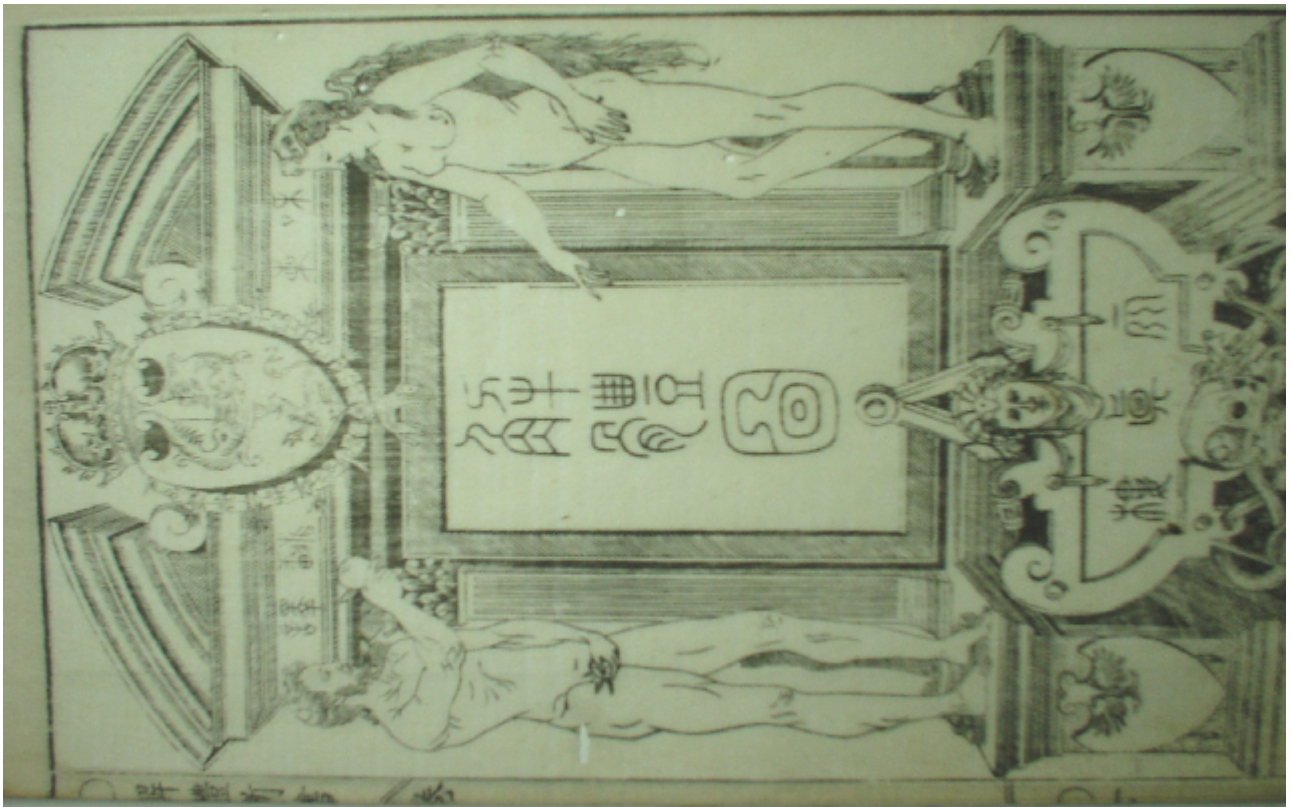


膠造の道具 (水平社博物館所蔵)
(膠とは、牛の様々な部位を溶かして作る接着剤)

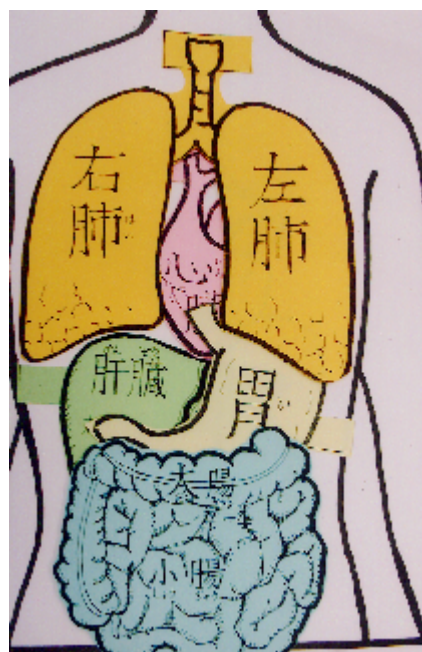
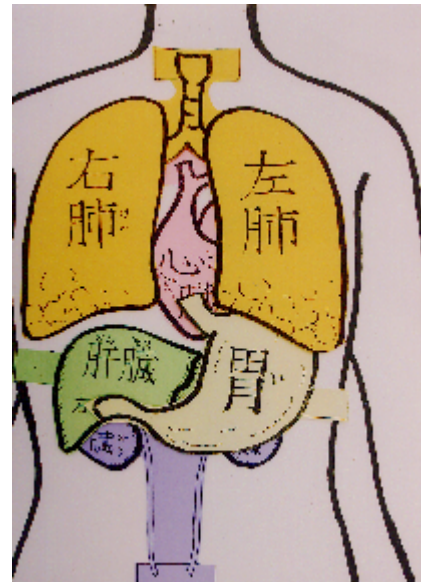
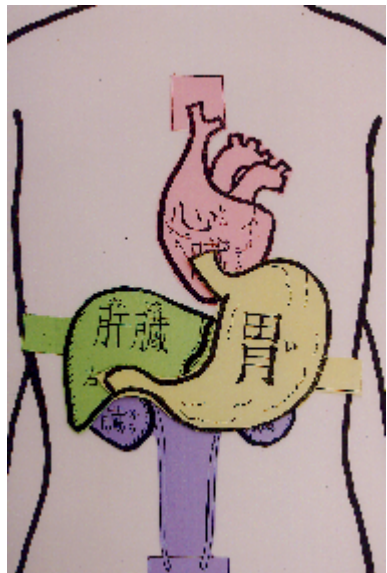
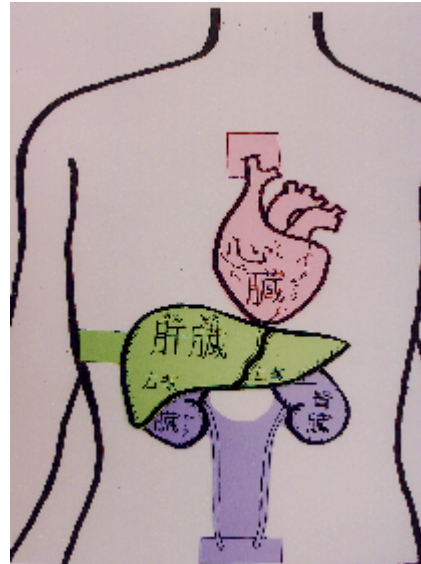
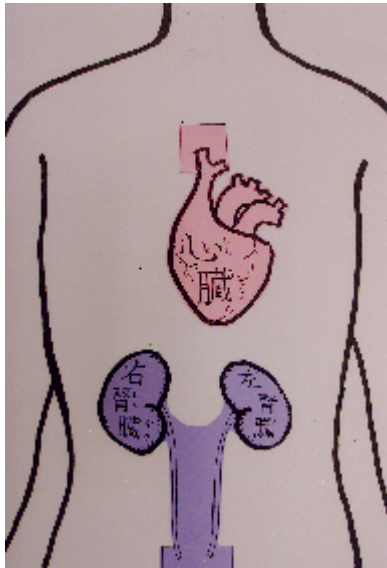
13 腑分けに立ち会った絵 (P11)(P62)



14 解体新書の扉 (高知県立牧野植物園所蔵) (P62)



15 人体配置図シート [解答] (南海中学校作成) (P113)



16 大理石の解剖台(東京大学医学部) (P113)



17 旧東京医学校(東京都小石川薬園) (P113)

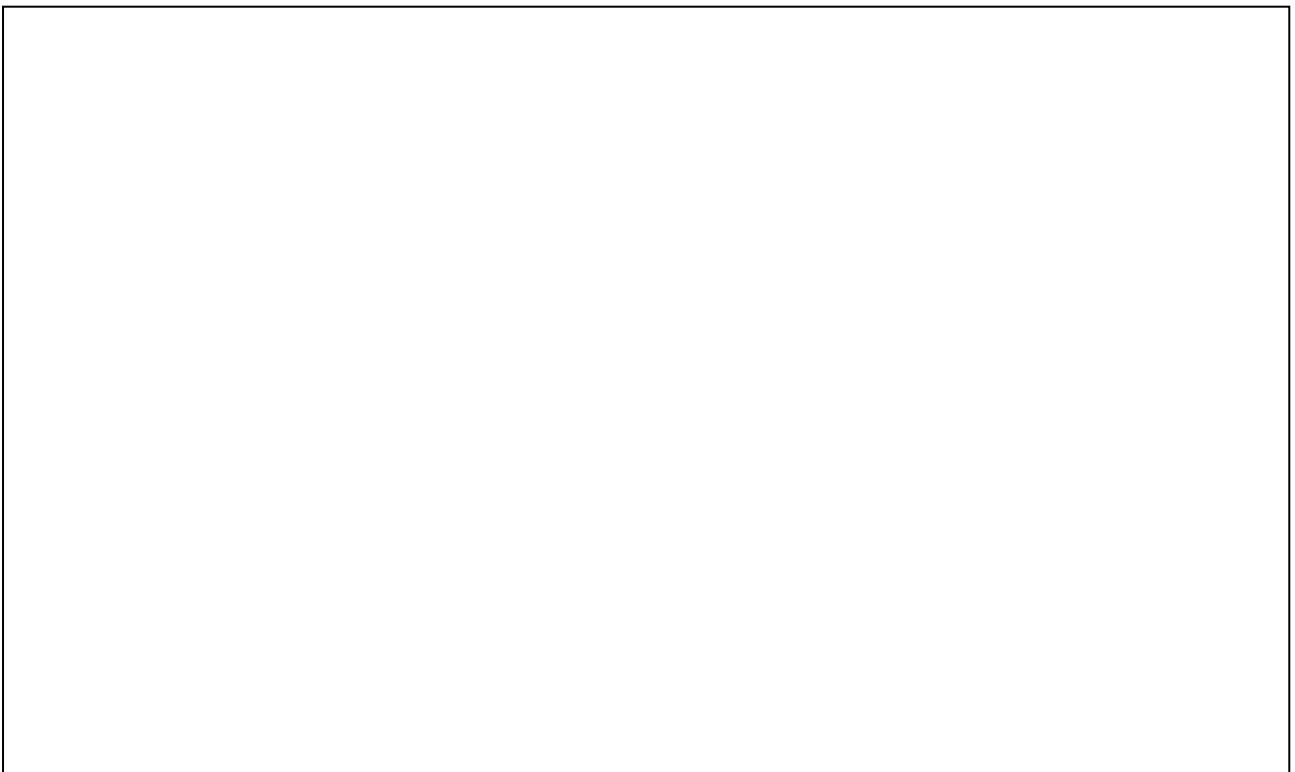


18 解放令後も残る差別意識

(「漫画明治大正史」 久保規夫 『近代の差別と日本民衆の歴史』 1993 明石書店をもとに作成) (P26)

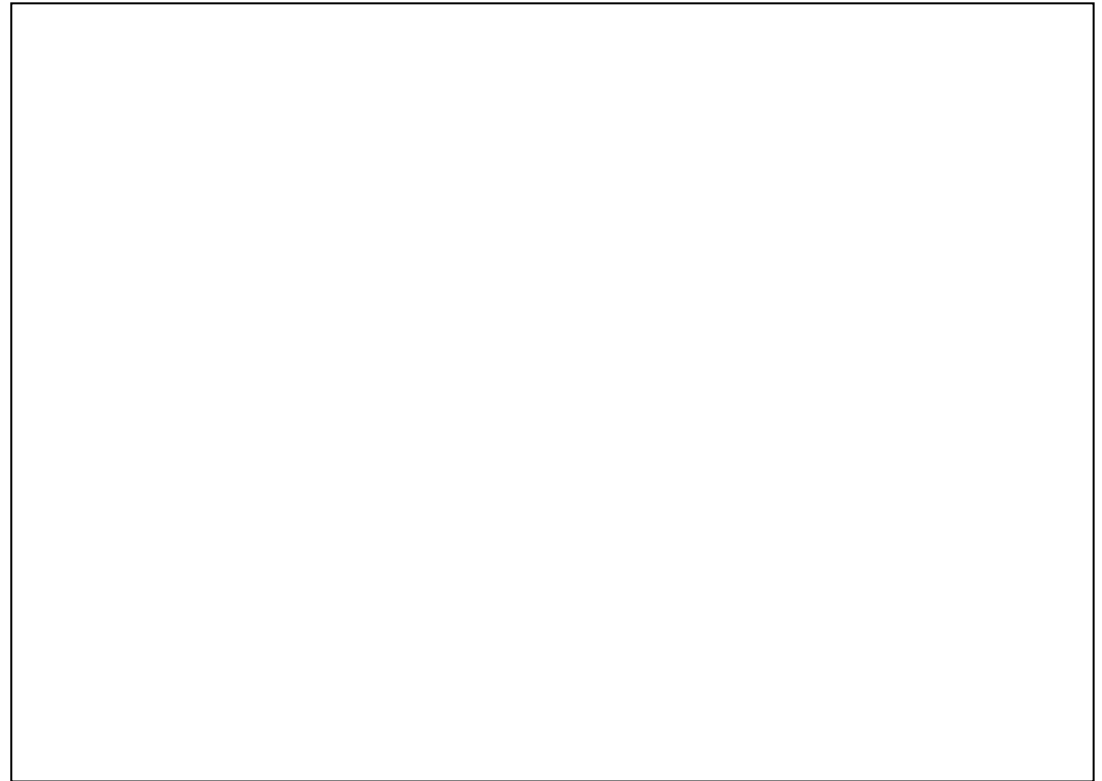


19 教科書の配布(高知新聞社所蔵) (P37) (P85) (P133)



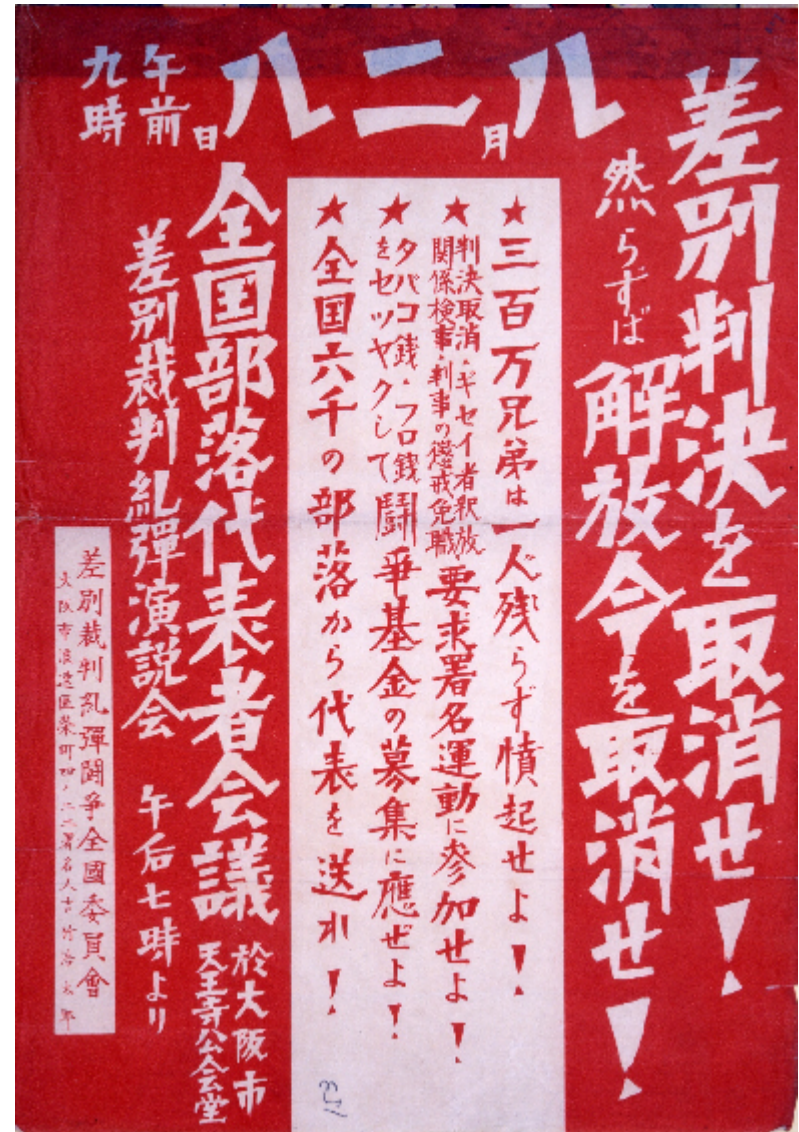
20 教科書をタダにする要求大会 (P39) (P83) (P135)

21 市長交渉 (P83) (P135)



(どちらも高知新聞社所蔵)

22 高松差別裁判糾弾闘争のポスター（P119）



(どちらも福岡県人権研究所蔵)